



釣れる度に保育者に見せるA児
「やったね！」と一緒に喜ぶ保育者



セロテープを貼って「元通りにしてあげよう」。手伝うR児



「ここ破れちゃった」
保育者に伝える



「釣れた！」保育者に見せるA児
近くで拍手を送るM児



どうしたら釣れるかな？
釣り糸を魚の口近くに垂らすA児

CASE 31

3歳児



(幼児の実態)

6月、水色の絵の具でボディーパーペインティングを楽しんだ子どもたち。13人の友だちが横になれるほどの広さのペイント用紙を見て「海みたいだね」「海に魚を泳がせたいな」と、魚作りが始まりました。花紙を丸めてビニール袋に入れて魚の体を作り、目は、まん丸目やニコニコ目を書いて貼りました。海で泳がせると、今度は「魚釣りがおもしろそう」「魚釣りしようよ」と、次の遊びが決まり、保育者は、部屋に2つの釣り堀を準備しました。

「わかなさん、よかったね」

協力園
立石こども園

保育者は、釣り竿に握りやすいラップの芯を用意しました。それに子どもたちがシャインテープの紐を付け、釣り糸にします。釣り針は、魚の口が引っかかるように太いモールを材料にしているのので、子どもたちは自由に角度を曲げられます。魚の口は、釣り針がかりやすいように、幅広く切った紙を輪っかにしています。

釣り堀で釣りを始めた保育者や友達が、「わあ、釣れた」「やったあ」と歓声を上げ始めると、その様子を見ていたA児も釣り竿を持って始めます。けれども、なかなか釣れません。釣り針が魚の口にかかるように釣り竿を動かすことが難しいようです。A児は、真横で魚をうまく釣り上げています。保育者を真似して自分も座り、釣り糸を魚の近くまで垂らしてみます。そして、左手で紐を動かして、釣り針を魚の口に引っかけて釣ることを試しています。何度も試しているうちに、釣り針を口の輪っかにくぐらせると、引っかかって釣れることが分かったようです。

今度は、A児は立って釣りを始めます。釣り針を魚の口にかけて、だんだんと釣れるようになりました。魚を釣り上げると、保育者に見てもらいたくて「先生、見て。釣れた！」と、a保育者の顔の前まで持っていく見せます。a保育者は、「やったね」「すごい」と拍手をしながらA児の嬉しさに寄り添います。近くで魚釣りを楽しんでいたM児も思わず「Aちゃん、すごい！うまーい！」と拍手します。A児は、釣り上げる度に「a保育者に見せ、a保育者もA児と一緒に喜びを繰り返して共有します。a保育者や友達に見守られ、魚を釣れるようになったA児は、嬉しさが増し、自信ももてたのか、ますます笑顔になって次の魚をねらい、魚釣りを楽しんでいます。

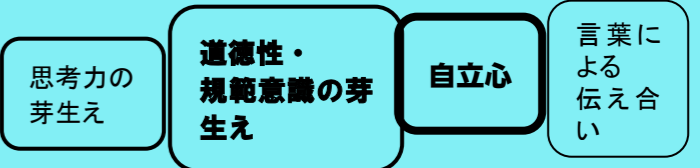
魚釣りに夢中のA児ですが、一匹の魚を釣り上げた時に転んで、釣り針から外れた魚を踏んでしまいました。すぐに拾ったA児は「あつ、破れてる」「魚さん、破れちゃった」と、魚の体を包むビニールが破れていることに気付きました。自分たちで作った大事な魚が傷ついたことに心が痛んだのか、困った表情で座り込みました。転んだことを心配したb保育者が「大丈夫？」と駆け寄ると、「こ、破れちゃった」と、小さい声で指差します。魚釣りの時とは打って変わって、申し訳なさそうな顔をしてb保育者の顔を見上げています。「破れちゃったね」「どうしようか」と尋ねたb保育者に、A児は「治してあげたい」と、思いを伝えました。破れて傷ついた大事な魚を元通りにしてあげたいA児の優しい思いがこもっていました。保育者は、A児の心の痛みや優しさを受け止め、「そうだね。一緒に治してあげよう」「心配しなくて大丈夫だよ」と、A児が安心できるような声をかけました。そして、セロテープやはさみがあるコーナーと一緒に移動しました。

コーナーでは、b保育者が破れた継ぎ目を手で合わせ、A児がセロテープで留めます。テープがしっかりと付くように何度も押さえています。様子を見ていたR児も来て、「切ってあげる」とテープ切りを加勢してくれます。破れた箇所がふさがっていくにつれてA児が穏やかな顔になります。テープで修復されたのを見計らって「もういいかな？」とb保育者が2人に声をかけると、A児も「もういいかな？」と少し嬉しそうな声で真似します。R児も「よかったね」と魚を両手に抱え、ほっとした様子で話しかけました。

治った魚を釣り堀に戻し再び釣りを始めるA児。ここでも釣れる度にb保育者に見せます。「すごい」「やったね」と、繰り返して喜び、ほめてくれる保育者の声に、A児は、自信をもって楽しんでいくようでした。

振り返りの時間、「今度は、水の中の魚釣りがいいなあ」と、新しい遊び方を希望する子どもの声が聞かれました。「そうかあ。水もいいねえ」と保育者は、今日とは違う釣り遊びを楽しむ子どもたちの姿を予想して、環境を考えています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

事例から見られる10の姿の育ち

自立心
A児は、保育者や友達が釣るのを見て自分も釣りたいとなる。釣り糸を垂らす位置を考えたり、魚の口に釣り針がかかるやり方を試したりする。うまく釣り上げる方法に気付いたA児は、釣れることがだんだん楽しくなる。釣れる度に保育者に見せ、大好きな保育者から拍手や称賛の言葉をかけてもらうことでますます意欲が高まってきたと思われる。

A児のこのような体験は、保育者や友達に励まされたり、難しいことでも自分の力でやってみようと考えたり、工夫したりしながら諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動する5歳児後半の姿につながっていくと思われる。

事例から見られる10の姿の育ち

道徳性・規範意識の芽生え
床で転び魚を踏んでしまったA児。自分たちで制作した大事な魚、魚釣りを楽しんでいる愛着のある魚が破れてしまったことに心の痛みを感じる。困りを保育者に伝え、A児は、保育者に支えられ、大事な魚を早く元に戻してあげたいと、自らセロテープで修復しようとする。魚が元通りになって安心したA児は、再び魚釣りを楽しむ。幼児期の子どもは、ぬいぐるみなどに名前を付けたり、話しかけたりして友達のようにつなぐことがある。

破れた魚を遊びの相手と捉え「元通りにしてあげたい」と思いやるA児の気持ちは、幼稚園生活における他児との関わりの中で、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる5歳児後半の姿へつながっていくと思われる。

自立心、道徳性・規範意識の芽生え環境構成のポイント

- 発達年齢に見合った遊び道具がある環境構成
持ちやすい太さの釣り竿、背丈と魚までの距離を考えた釣り糸。魚の口にかかりやすい太いモールで作った釣り針、釣り針がかかりやすい大きな魚の口等、3歳児が釣りを楽しめる道具の準備。
- 共感したり、寄り添い支えたりする保育者の存在
魚が釣れたA児に、称賛の言葉と手をたたいて一緒に喜ぶ。A児が困った場面では、安心感を持たせ、共に解決しようと寄り添う保育者の存在。
- 遊びを一緒に楽しむ友達の存在
一緒に釣りを楽しんだり、破れた魚と一緒にテープを貼って修復を手助けしたりする友達の存在。